

(1) 活動の概要

本校は豊橋市の南西部に位置する全校生徒320人ほどの小規模校である。校区には、国内有数の干潟である『汐川干潟』を有し、総合的な学習が始まった平成12年度よりこれまで、校区の特色である汐川干潟を軸にした環境教育に取り組んできた。現在では、「持続可能な学校・地域を構築する『ESD』の理念を核にして、『安全、安心な学校づくり』『誰にでも居心地のよい学校づくり』『生徒にとって誇りのもてる学校づくり』の3本の柱をもとに、学校・学年・学級経営を推進する」という経営方針を校長が明示し、ESDを核にしたホールスクールとしての取り組みを展開している。

そこで本校では、①地元「汐川干潟を中心に据えた環境教育」、②ESDの視点を導入した授業づくり、③ESDの視点を導入したカリキュラム編成、④ESD推進のための組織的な取り組みを推進している。

① 地元「汐川干潟を中心に据えた環境教育」に関する取り組み

本学区は田畑に囲まれ、中心に紙田川という生物種の豊富な川が流れており、河口部は280ヘクタールの面積がある国内有数の『汐川干潟』に面している。そこで、本校では「汐川干潟」を軸にした環境教育を推進している。具体的には、「観鳥会」「環境学習デー」などの現地学習を年間計画に位置づけ、それに向けた学習を総合的な学習の時間を活用して実施している。また、実施にあたり、豊橋市の環境保全課の方々、NPO「汐川干潟を守る会」の方々、地元の「汐川干潟を保全する会」のご協力をいただいている。

NPO、地元団体、行政がかかわってくれたことで専門的な知見、物質面を含めた体制の協力、昔の干潟の様子を教えていただける地元の方々の支援を得て、活動が充実したのはいうまでもない。また、関係団体の方々が支えていただくことで、今後も本校の特色ある教育活動が持続していく明るい見通しがもてた。

② ESDの視点を導入した授業づくり

生徒が未来を生き抜くことができる問題解決力を育てるために新学習指導要領の柱の一つになっている「主体的、対話的で深い学び」いわゆるアクティブ・ラーニングを取り入れた。問題解決的な学習形態として、6つの授業過程「①場面把握をする②課題を見出す③見通しをもつ④自力解決をする⑤集団解決をする⑥振り返りをする」を導入した。6つの授業過程を意識して50分の授業を組み立てることで、生徒が受け身の授業ではなく、自ら主体的に課題に取り組むよう工夫した。また、授業案には、国立教育政策研究所の7つの能力・態度を参考にして、本校版のものに見直した。それにより、授業者のみならず、事後の協議会においても授業の視点が明確となり、授業が「ESD」の何に結びついているのか、授業の本質的なねらいが授業者にわかるようになった。

③ ESDの視点を導入したカリキュラム編成

「ESDカレンダー」を作成している。ESDカレンダーは、学校の特色ある教育課程を表すもので、特色ある教育課程を計画し、職員が共通理解することができる大変有効なツールであると考えられる。本校の中心である汐川干潟にかかわる活動、一般的な環境問題、地域、安全・安心といった他の特色ある活動を種類別に色分けして、本校の特色が端的にわかるようにした。これは、あくまで、現在

進行形であり、今後、常に改善され、引き継いでいくこととなる。この改善を学期ごとのPDCAサイクルにのせることにしたことで、今後持続的に改善されていくようにした。

④ ESD推進のための組織的な取り組みを推進している。

本校の特色ある教育活動を持続させるために、職員、生徒ともに組織を再編した。職員の組織としてESD主任を設置し、総合主任、学年主任、校長ら学校四役からなる「ESD推進委員会」を設置した。本校のESD、特色ある教育活動について定期的に見直し、共通理解する場とした。次に生徒の自治的組織としての委員会の一つに「ESD委員会」を設置した。生徒自身によるESDの啓発を図り、持続可能な取り組みを行う役割がある。実際には今年度から「ESDパスポート」を実施し、その周知も活動の一つにかかげ、生徒の20%近くがボランティア活動にかかわるようになるなど大きな成果をあげている。



環境学習デーでNPOから説明を受ける



汐川干潟と本校2年生



問題解決的な授業の授業研究会（数学）



汐川干潟で530運動を行う本校生徒

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input checked="" type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

(講師)
汐川干潟を守る会 藤岡エリ子 氏他複数名
汐川干潟を保全する会 鈴木 隆年 氏他複数名
豊橋市環境部環境保全課 複数名

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

豊橋市は、74の市立小中学校全校が、ユネスコスクールとして加盟しており、市教委の指導のもと、ホールスクールとしてユネスコスクールとしてのESDにかかわる活動を位置づけている。本校では校長が示す学校教育目標にも位置づいている。

「持続可能な学校・地域を構築する『ESD』の理念を核にして、『安全、安心な学校づくり』『誰にでも居心地のよい学校づくり』『生徒にとって誇りのもてる学校づくり』の3本の柱をもとに、学校・学年・学級経営を推進する。」

よって、指導方法の工夫改善は、生徒会および学校職員の学校運営そのものの改善計画として位置づけてある。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

職員組織に「ESD主任」を位置づけることが豊橋市全体の取り決めとなっており、本校でもESD主任を中心に推進している。また、校内では生徒会組織の中に「ESD委員会」を設置し、ボランティア活動を中心に生徒自身がESDを推進している。

また、環境教育としての地元「汐川干潟」の保護活動の取り組みでは、汐川干潟を守る会など、地元NPO、行政などと連携し、継続的に推進している。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

現在、改変中であるが、平成29年度は学校評価の中の生徒評価に試行として、資質・能力を生徒自身に問うアンケート式の評価を取り入れた。前期と後期の2回実施し、本校では、「多面的な見方、考え方」の数値が低いことがわかり、今後、問題解決的な教科の学習や、総合的な学習などの取り組みをとおして、高めていくこととしている。また、成果として、ESDの視点で学校評価を見直し、改善する方向に向かうことができた。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

常時、学校のホームページに本校のESD活動については発信している。また、平成29年度は、11月24日(金)に「ユネスコスクール豊橋大会」を開催し、その大会の第2会場として、地域の多くの御来賓、関係者を招いて、授業公開、協議会、学校の取り組みの発表を行った。その他、学校新聞等で必要に応じて発信するようにしている。それらをとおして、本校がESDを中心として特色ある学校をつくりあげていることを地域に知っていただくことができた。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)
(200字程度) ※チェック事項 2-3 に対応

本校は、NPO団体である「汐川干潟を守る会」、地元団体である「汐川干潟を保全する会」、豊橋市役所環境部環境保全課などと協働で年間計画に位置づけた環境学習を実施している。また、本年度はESD活動支援センター、ユネスコスクール支援大学が開催した研修会の場で、要請を受け、実践発表を行った。今後は、地元団体「汐川干潟を守る会」、地元ユネスコ協会「豊橋ユネスコ協会」に希望生徒を派遣し、互いに情報交換したり、他校との交流を深めるなど生徒自身のネットワークを構築する予定。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度) ※チェック事項 2-4 に対応

平成28年度から国外では「ACCU」の紹介を受けたタイのユネスコスクールと交流を希望し、校長レベルのメールでのやり取りをしたが、返信に3か月以上かかるなど、数回のやりとりにとどまり、現在では頓挫しているのが現状である。国内では、市内・県内でのユネスコスクール交流会に、機会が合えば積極的に参加していく意向である。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項 2-5 に対応

地域団体「汐川干潟を保全する会」の全面的な協力のもと、地元との関係が強化された。その結果、本校が環境教育に力を入れていることが周知され、地域の全面協力を得ることができた。また、ESDの視点で、授業、学校行事など学校運営を改善する視点をもてた。同様に、カリキュラムの改善も進展している。カリキュラムでは、H29年にESDカレンダーの見直しを行い、今後は、毎年、担当で見直しを図り改善する予定である。それによって、新学習指導要領への移行もスムーズだととらえている。

- (3) 平成30年度の活動計画（200～400字程度）

環境学習としては、3年生は、汐川干潟の530運動活動と、半世紀前に汐川干潟を保全した「小柳津弘氏」を扱った自作教材を使用した道徳を予定している。2年生は、汐川干潟の未来を考える中心学年として「総合的な学習」を中心に「未来の汐川干潟はどうあるべきか」を考え、年1回全校で現地で学習する「環境学習デー」の中で、1年生をリードし、2年生が考えた保護活動を展開していく。1年生は、汐川干潟に飛来する渡り鳥を観察する「観鳥会」、総合的な学習の中の「環境問題にかかわる個人調べ学習&発表会」を実施し、環境問題に関する基礎を培う。

安全・安心にかかわるとりくみとしては、H30年度も継続して自転車運転免許制度と講習会を実施する。また、「豊橋学校いのちの日」には、命の講演会と、不審者対応訓練を今年度は全校で実施する。

さらに、生徒会・級長会を中心とした常時活動では、ESDパスポートを活用したボランティア活動を継続して推進していく予定である。